

研究経過報告

村上 隆

この欄には、3年間ご無沙汰してしまった。したがって、ここ4年間のことを報告しなければならないことになるが、まとまった考えを述べることは難しい。こころしばかり、研究領域を、「多次元解析」、「心理測定理論」、「日本語能力試験」に三分割して考えている。これらの間には、それなりに関連はあるのだが、ここではとりあえず、この間に刊行された物をこの三つにわけて並べ、報告に代えることにしたい。

1. 多次元解析

具体的には、3相データ、多集合データ、多群データという、複数のデータ行列の分析方法の開発である。基礎的なもの、応用的なもの、オリジナルなもの、レビュー的なものを問わず、刊行順に並べておく。

村上 隆 1987 2次合成変量のアルファ係数の和を最大化する多集合データの階層的な主成分分析 II 経営行動科学, 2, 77-88.

松浦 均・若林 満・廣岡秀一・村上 隆 1989 先端科学技術に対するイメージの構造——階層的な主成分分析に基づくイメージの構造—— 経営行動科学, 4, 101-109.

村上 隆 1990 3相データの階層的な主成分分析 1989年度科研費総合研究(A)「高度な相互連関をもつ多重配列データの新しい解析システムの開発」報告書, 1-13.

村上 隆 1990 3相データの階層的な主成分分析 柳井晴夫・岩坪秀一・石塚智一(編)『人間行動の計量分析——多変量データ解析の理論と応用』東京大学出版会 71-94.

村上 隆 1990 3相データの階層的な主成分分析の若干の性質と適用上の問題 文部省特定研究「教育の場における相互作用の実証的総合研究」報告書 名古屋大学教育学部, 219-232.

廣岡秀一・松浦 均・村上 隆・若林 満 1990 先端科学技術に対するイメージの構造(II)——熟知度および性格特性との関連—— 経営行動科学, 5, 67-74.

村上 隆 1990 多群・多集合・多層データの主成分分析について 行動計量学, 18, 28-40.

村上 隆 1991 TUCKALS2のアルゴリズムを用い

た3相データの数量化 1990年度科研費総合研究(A)「高度な相互連関をもつ多重配列データの新しい解析システムの開発」報告書, 1-12.

村上 隆 1991 多集合・多群データの階層的な主成分分析 名古屋大学教育学部記要—教育心理学科—, 38 (本巻)

2. 心理測定理論

こちらは、現在のところ筆者自身の考えが完全には固まっていない。どちらかと言えば啓蒙的活動が多い。3番目の論文の線が、今後につながって行けばと思う。なお、次の3と4の中にあげた内にも、こちらのカテゴリーに入りたいものがある。

村上 隆 1988 心理測定の意味—物理的アナロジーを通して— 村上英治(編著)『教育心理学への歩み』川島書店 79-95.

村上 隆 1988 教育の評価 久世敏雄(編)『教育の心理』163-176.

村上 隆 1989 心理測定の理論と家族的類似の概念 名古屋大学教育学部記要—教育心理学科—, 36, 149-156.

3. 日本語能力試験

準備に長時間を要したが、日本語教育学会(編)1991『日本語テストハンドブック』大修館書店

の出版にこぎつけた。筆者は編集委員として参加し、全体の約3分の1を執筆した。一つ肩の荷が下りた気持ちである。それ以外に、

村上 隆 1990 日本語能力のテストと評価—計量心理学の立場から—「日本語聴解能力に関する考察」日本語教育学会, 41-66.

なお、従来通り、大坪一夫(筑波大)、野口裕之(当教室)両氏とともに、「日本語能力試験」の報告書(非公開)の執筆を毎年行ってきた。

4. その他

入試の分析は、今後、長期間続く仕事となろう。また、教育心理学、あるいはそれを越えた分野での、データ解析の利用に関しては、析りにふれて発言していければと考えている。

田畑 治・村上 隆 1987 変わる「ライフスタイル」

教育心理学教室教官の研究状況報告

- 名古屋大学放送公開講座『転換期の教育を考える』
名古屋大学, 33-42.
- 村上 隆 1990 テストの理論と現実の「はざま」で教育
心理学年報, 29, 92-100.
- 村上 隆 1990 データ解析の落とし穴 名古屋大学大
型計算機センターニュース, 21, 237-256.
- 小嶋秀夫・村上 隆 1991 入試成績と教養部の成績と
の相関関係: 3年度分の結果 大学入試ジャーナル,
No.1, 27-31.
- 小嶋秀夫・村上 隆 1991 名古屋大学教育学部におけ
る論述的学力検査 1990年度科研費総合研究 (A)
「大学入試における実技・面接・小論文等の評価に
関する研究」報告書, 31-60.

研究経過報告 (1991年4月～9月)

杉 村 伸 一 郎

個人研究

1. 「児童における空間的階層関係の理解」と題した研究を行い、第16回児童学習フォーラムと、第33回日本教育心理学会で発表した。
2. 「幼児の視力検査における知的能力の影響 (II)」を、第55回日本心理学会で発表した。
3. 対面したものの左右の判断に関するレビューと予備実験を行った。
4. 分担執筆として、以下の2点が刊行された。
 - (1) 想起と忘却 一再生と再認の実験— 宮沢秀二・二宮克美・大野木裕明 (編) 自分でできる心理学 ナカニシヤ出版 1991 Pp. 12-15. (第2章)
 - (2) 知覚と運動の発達 小嶋秀夫・河合優年 (編) 児童心理学 近畿大学豊岡短期大学 1991 Pp. 17-32. (2章) 動機づけの発達 同 Pp. 79-89. (9章)

共同研究

1. 空間認知に関する研究としては、「子どもにおける他者からの「見え」の理解 —誤反応パターンの分析—」愛知教育大学教科教育センター研究報告 1991, 15, 35-42. (竹内謙彰・杉村伸一郎・今川峰子) が現れた。
2. 「親族関係の心理的認知に関する探索的研究」福井

- 大学教育学部紀要第IV部 教育科学 1991, 42, 117-130. (大野木裕明・杉村伸一郎・田中俊也) が現れた。
3. 「既存の言語知識が新たな言語習得に及ぼす影響」と題した研究を行い、外国人子女の日本語習得過程に関する学際的基礎研究及び教育プログラム開発研究 平成元年度・2年度科学研究費補助金総合研究 (A) 研究成果報告書 129-138. (川上正浩・堀田朱美・杉村伸一郎) に執筆するとともに、第33回日本教育心理学会で発表した。
4. 子どもの入浴行動と親子の関係に関する研究を行い、報告書の編集・執筆 (梶田正巳・杉村伸一郎・二宮克美・吉田直子) を行うとともに、第2回日本発達心理学会、第40回東海心理学会、第33回日本教育心理学会で発表した。
5. 「現職教員は教育評価方法の専門用語をどの程度知っているか」(大野木裕明・杉村伸一郎) の結果の分析を行った。
6. 吉崎一人氏と共同で、珠算の成績が、子どもの持つ珠算の能力に対する考え方、珠算の学習目標、学習の仕方とどのように関連するかを調べる質問紙を作成し、実施した。